

平成30年2月19日開催「総合計画審議会配布資料」

資料6-1

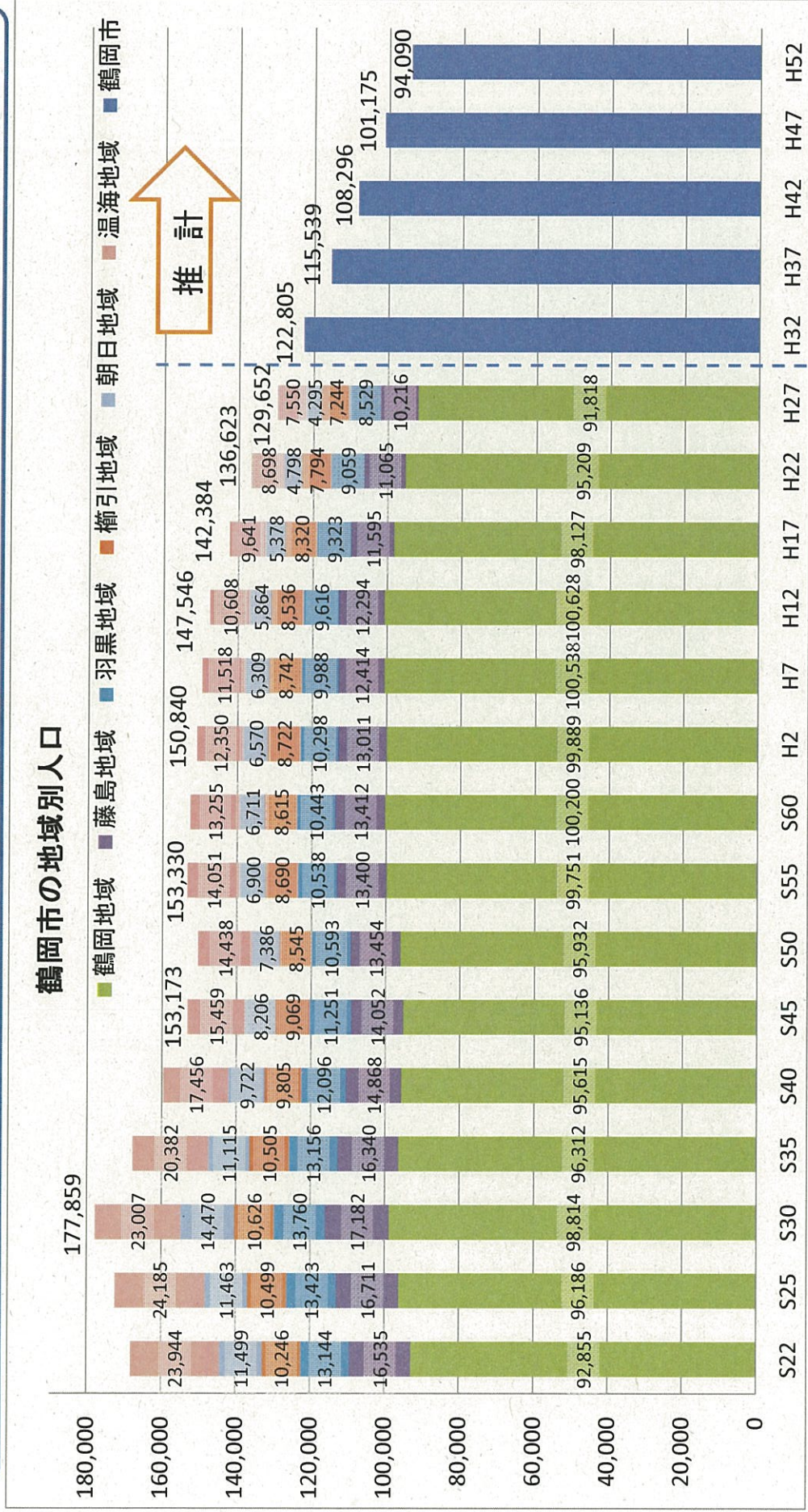
鶴岡市の人口

平成30年2月

鶴岡市総合計画審議会

1 人口 - (1) 市内各地域の状況①

- ・ 総人口は昭和30年にピークを迎え、昭和55年以降一貫して減少している。
- ・ 平成22年から27年の5年間で、約7千人(総人口の約5%相当)が減少しており、この傾向が続くものと予想される。
- ・ 平成52年(2040年)には、総人口は約9万4千人まで減少するものと予想される。

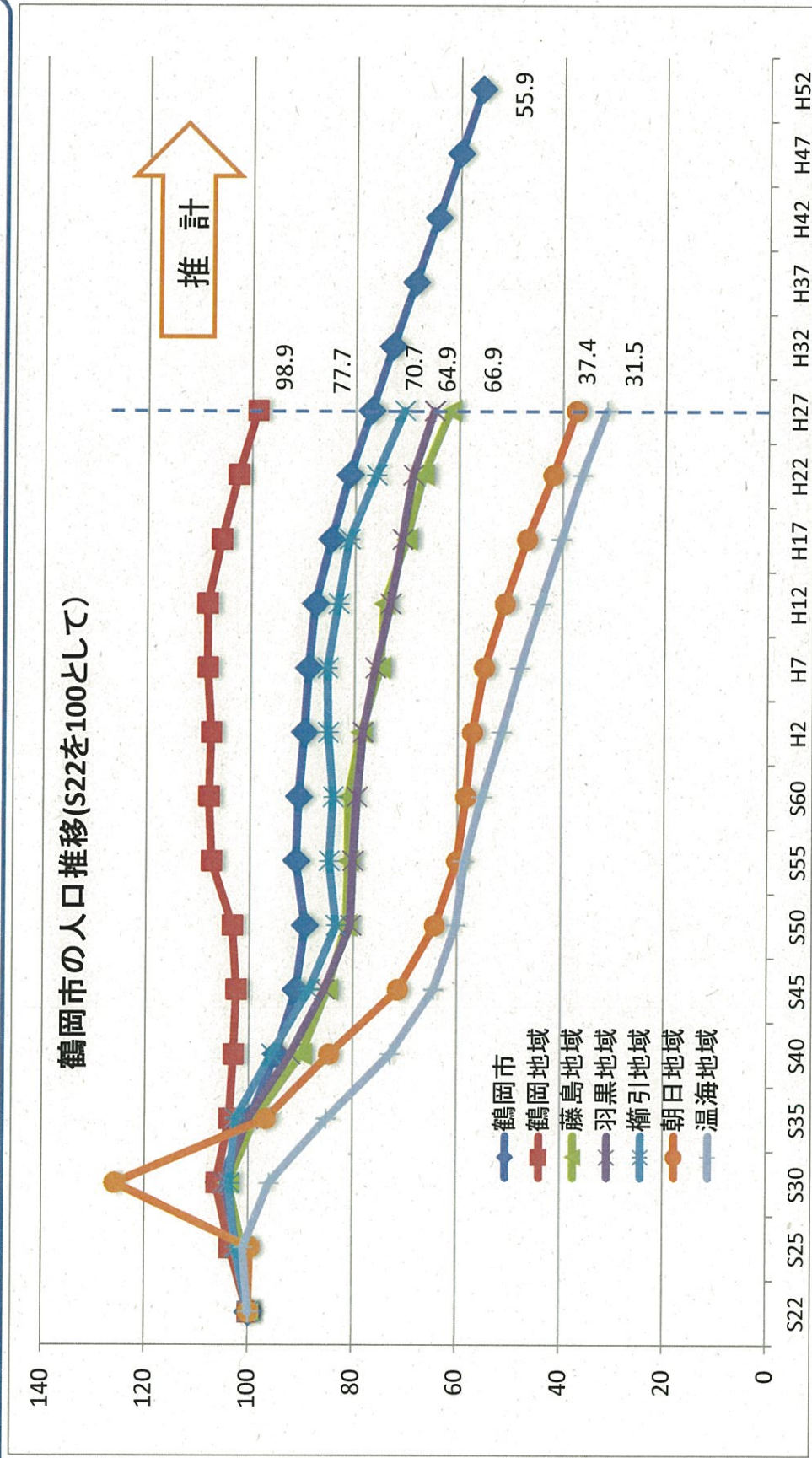


資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

1 人口 - (1) 市内各地域の状況②

昭和22年の人口を100とした場合、平成27年の人口は、

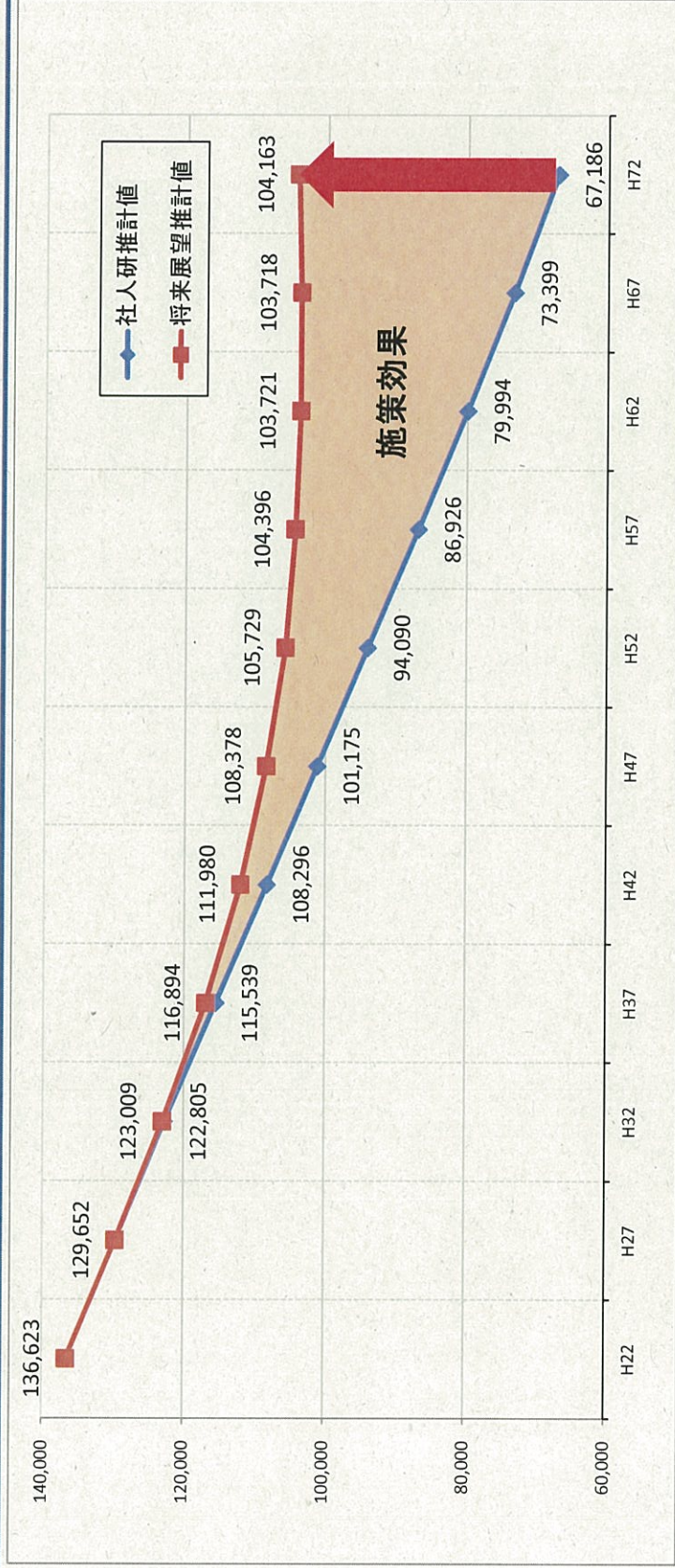
- ・ 温海地域では3割強、朝日地域では4割弱の水準まで低下した。
- ・ 藤島、羽黒、榎引の各地域は7割弱の水準まで低下した。



資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会安全保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

1 人口 - (1) 鶴岡市人口ビジョンにおける将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による推計値に対し、平成27年10月に策定した「鶴岡市人口ビジョン」における本市の推計値は、下記グラフの「将来展望推計値」とおり。
- 「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等、各施策効果の発揮により出生率や社会動態を改善し、人口減少を緩やかなものにすることを目指し、平成52年(2040年)時点での社人研推計値94,090人に対して、将来展望推計値を105,729人(社人研推計値比+11,639人)と見込む。

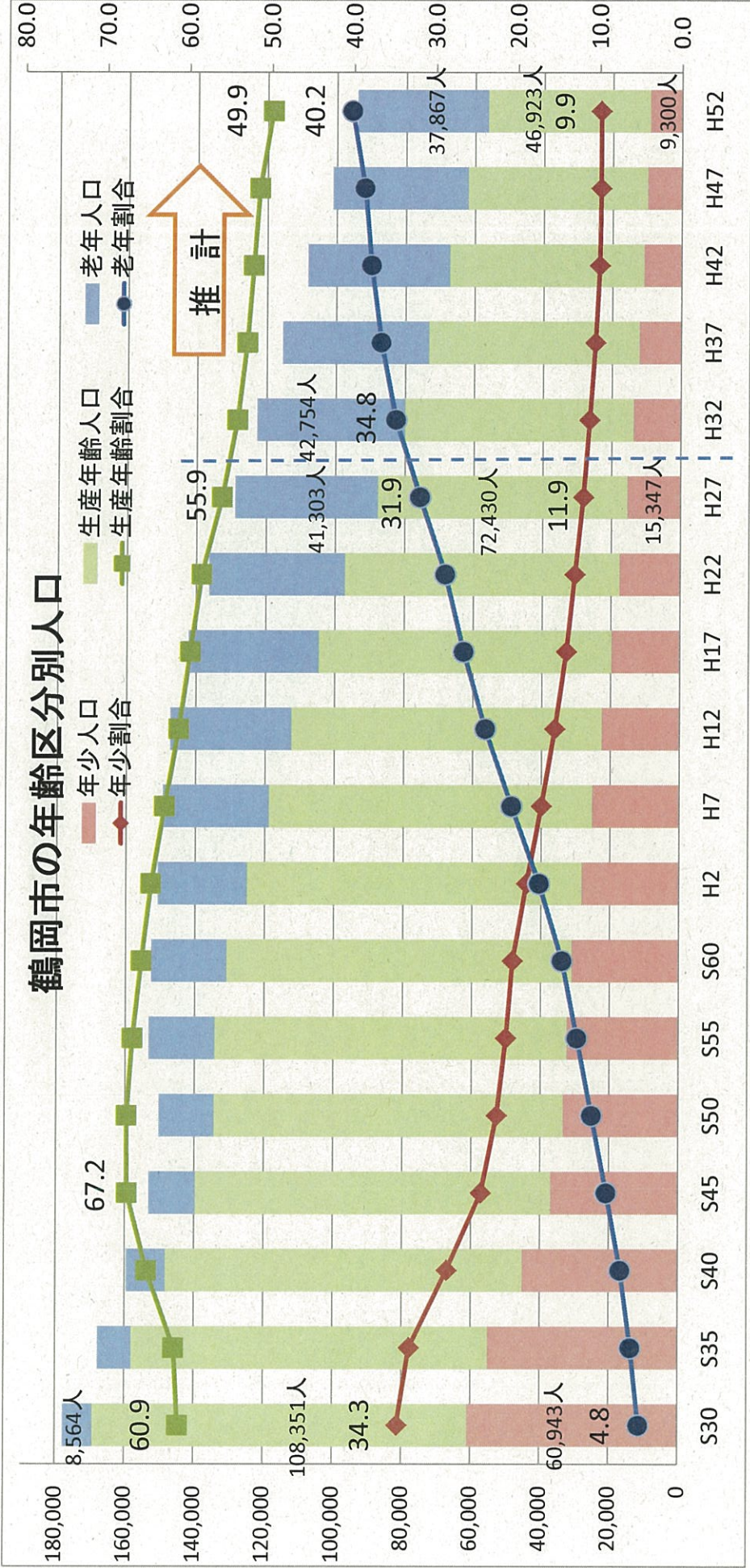


	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
社人研推計値	136,623	129,652	122,805	115,539	108,296	101,175	94,090	86,926	79,994	73,399	67,186
将来展望推計値	136,623	129,652	123,009	116,894	111,980	108,378	105,729	104,396	103,721	103,718	104,163

資料 国勢調査。平成32年以降は、「鶴岡市人口ビジョン」における将来展望推計値(平成27年10月策定)

1 人口 - (2) 年齢区分別

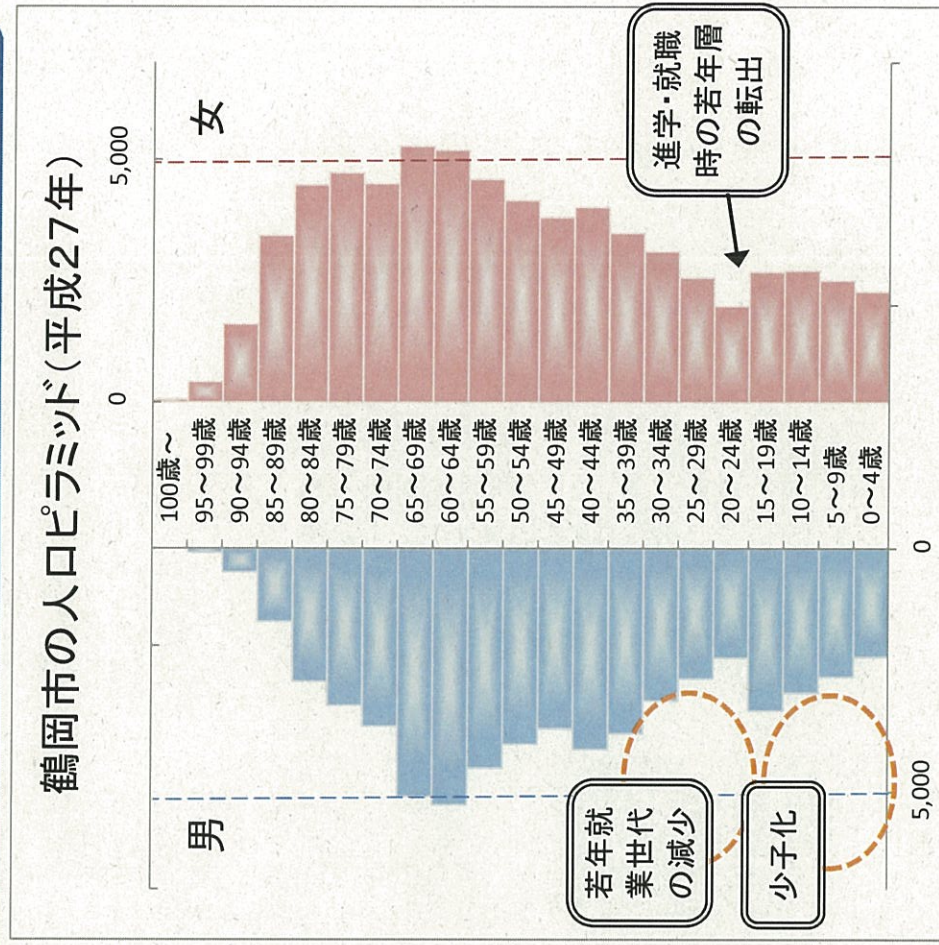
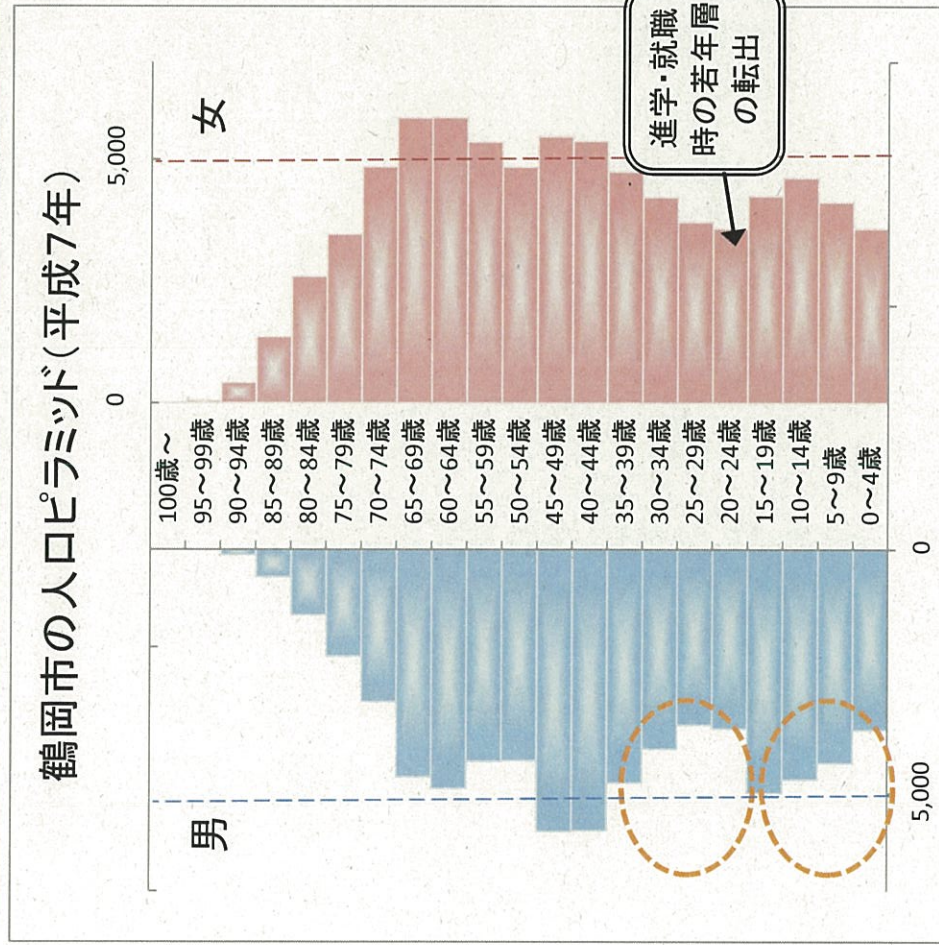
- ・ 生産年齢人口(15-64歳)は、平成27年の約7万2千人から、平成52年には約4万7千人となり、25年間で約35%減少する見込み。
- ・ 老年人口(65歳以上)は、平成27年の約4万1千人から、平成32年の約4万2千人をピークとして、減少に転じることが見込まれるが、総人口に占める割合は上昇を続け、平成52年には40%を超える見込み。



資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

1 人口 - (2) 年齢区分別 - ②人口ピラミッド

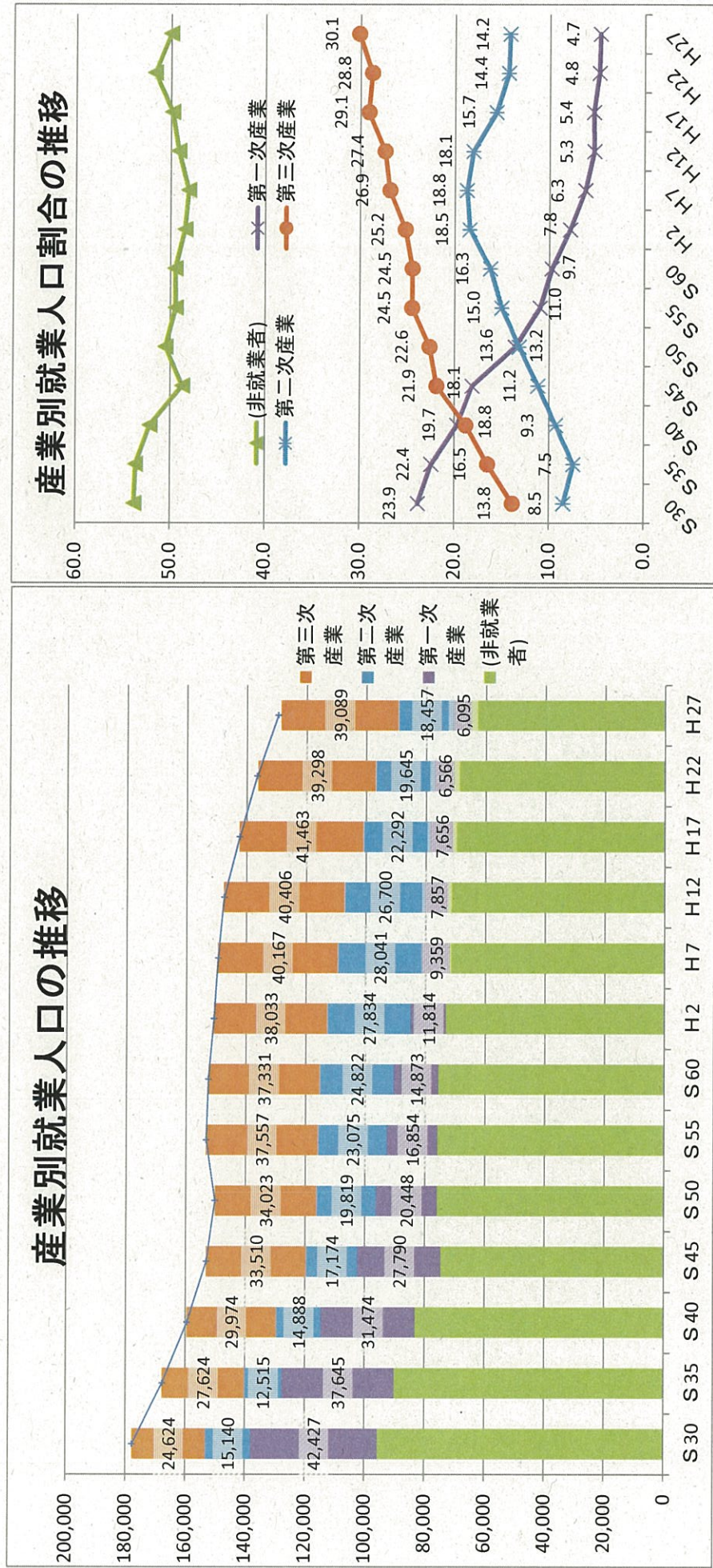
- 平成7年と平成27年人口ピラミッドを比較すると、**20歳後半から40歳台前半にかけての若年就業世代と10歳台以下の子ども世代人口が大きく減少**している。
- 進学・就職時の転出傾向は同じく続いている。



資料 国勢調査

1 人口 - (3) 産業人口の変化

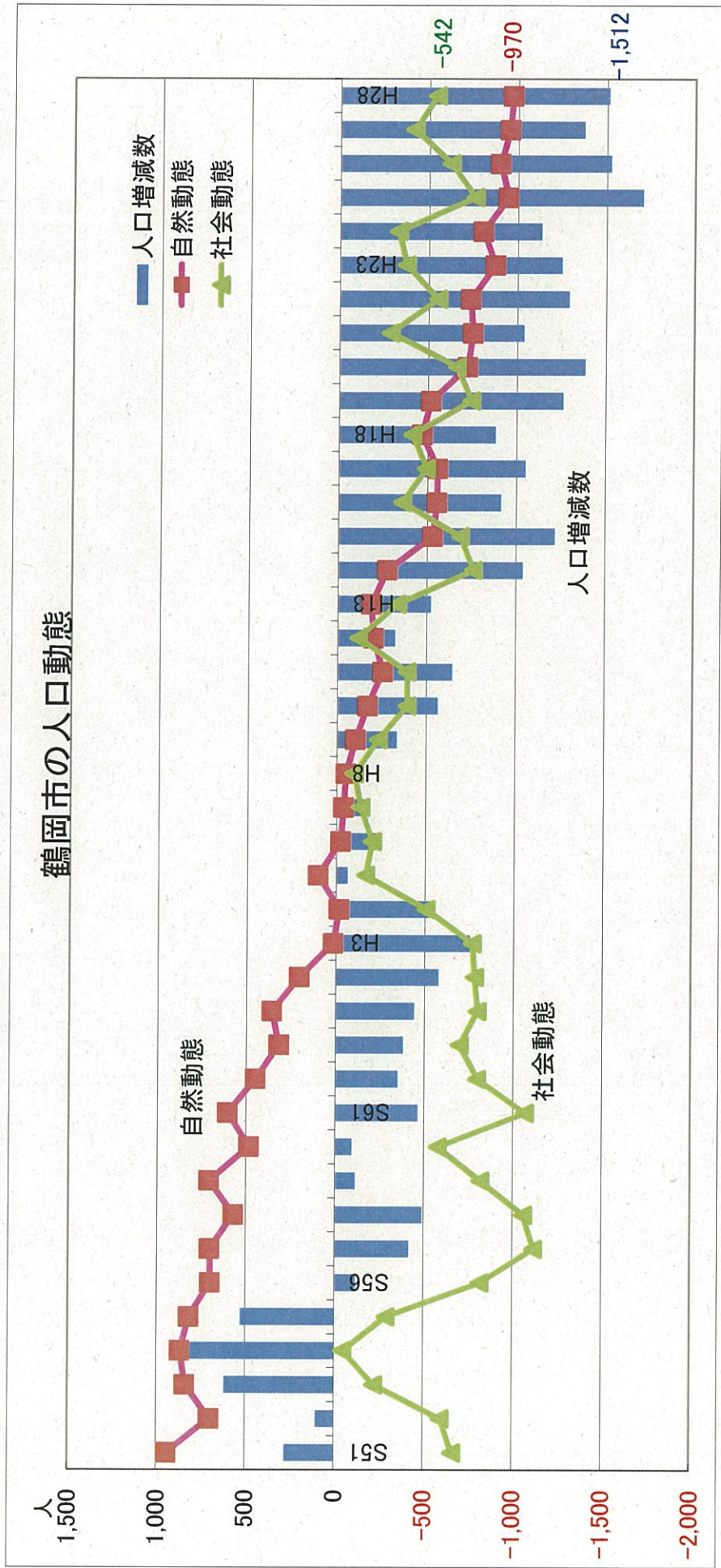
- 第一次産業の就業人口は、一貫して減少が続いており、平成27年の就業人口は30年前の約4割の水準まで減少している。
- 第二次産業の就業人口は、平成7年をピークに減少している。
- 第三次産業の就業人口は、平成22年以降人数は減少に転じているものの、その割合は上昇している。



資料 国勢調査
注 「(非就業者)」は、総人口と就業者数の差

1 人口 - (4) 人口動態の推移

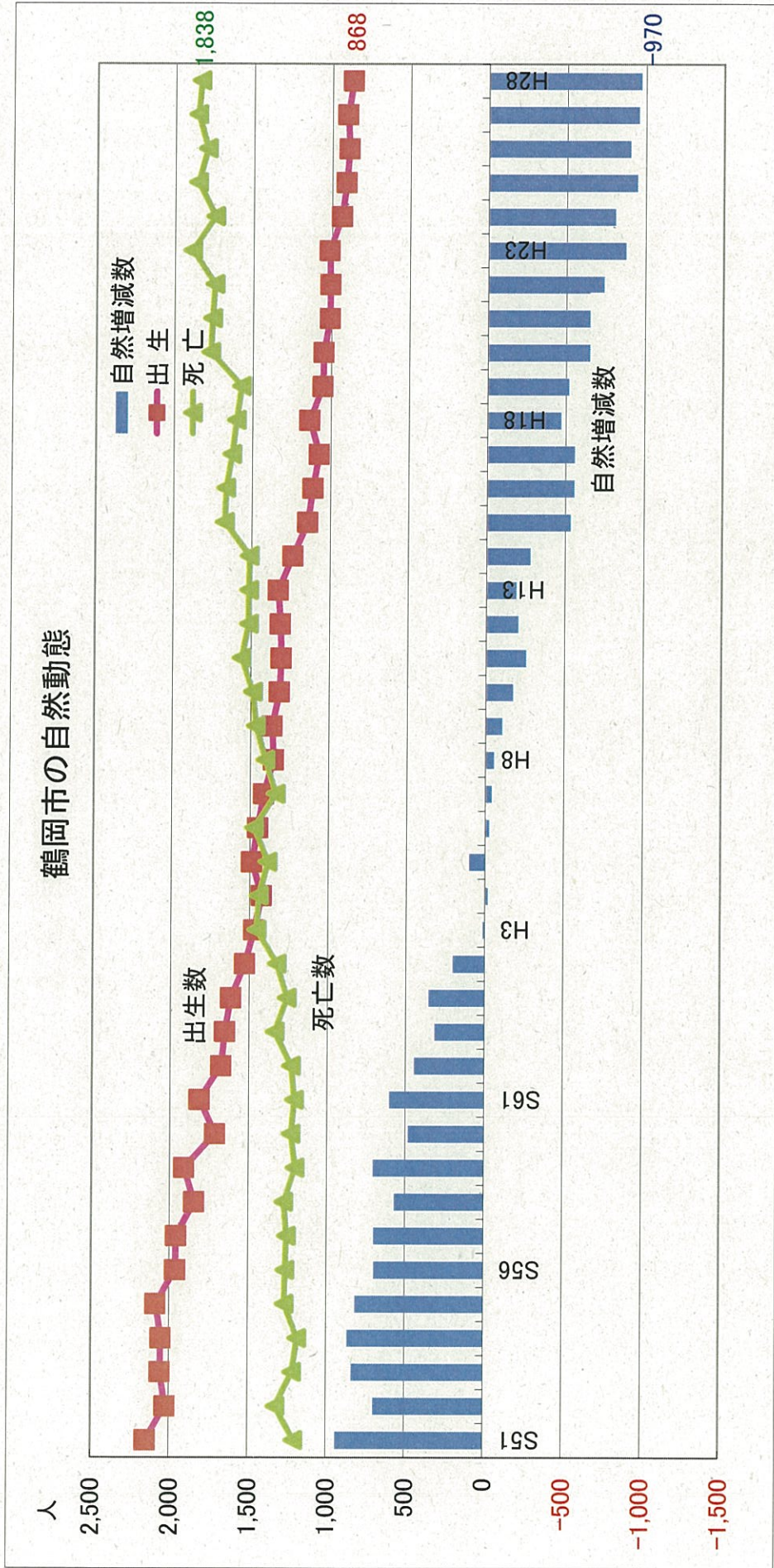
- ・ 自然動態は平成6年以降マイナス(死亡>出生)で推移しており、減少数は拡大傾向にある。
- ・ 社会動態は一貫して転出超過であり、近年は500人程度の転出超過で推移している。
- 人口減少の主要因は、かつては**社会動態(転出超過)**による減であったが、現在は**自然動態(出生数の減少・死亡数の増加)**による減となっている。



資料「山形県の人口と世帯数」
 注 この年度は、当該年度の前年の10月1日から当該年度の9月30日までの期間を指す。

1 人口 - (4) 人口動態の推移 - ① 自然動態

- ・ 出生数の減少と死亡数の増加が同時に進行しており、マイナス幅は拡大傾向にある。



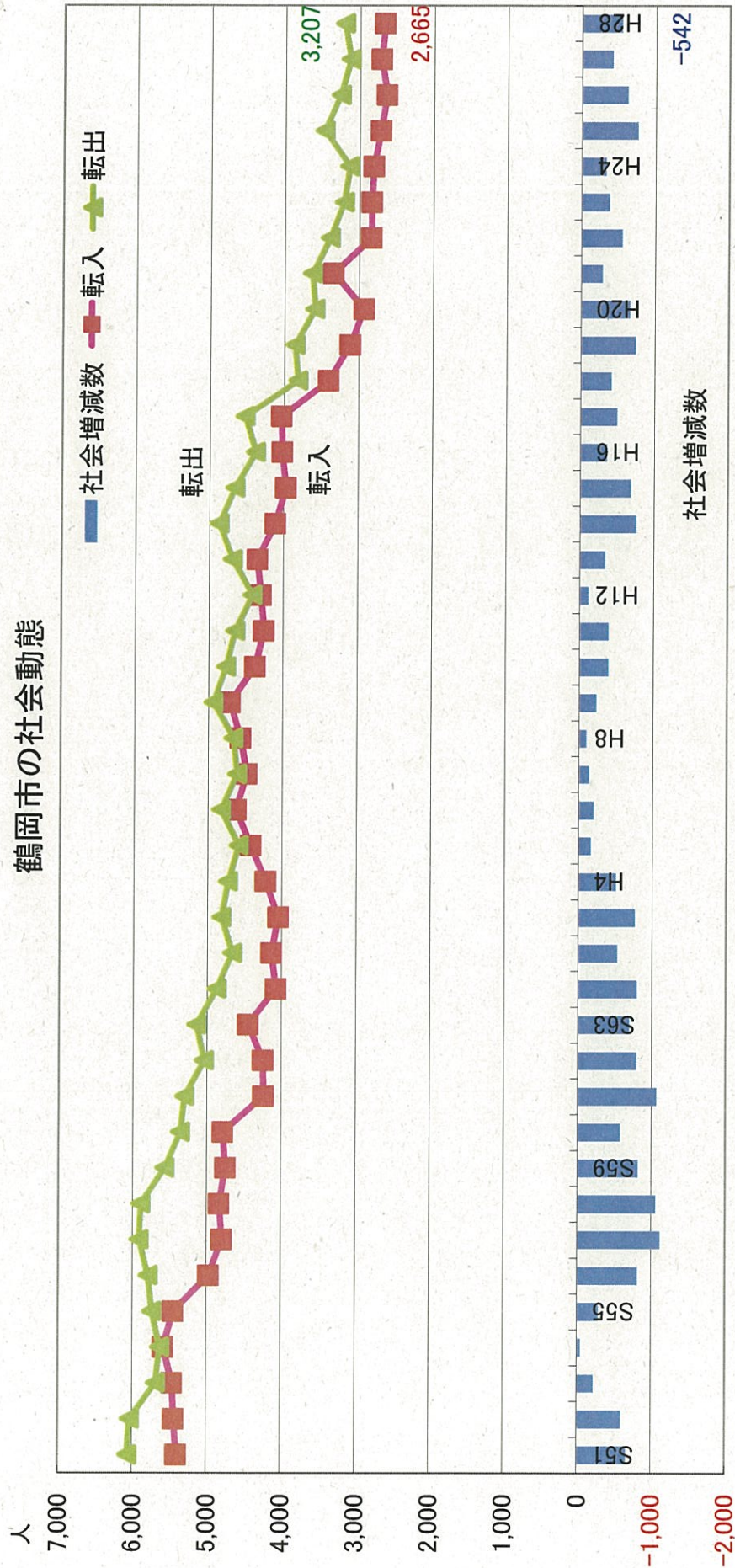
資料「山形県の人口と世帯数」

注 この年度は、当該年度の前年の10月1日から当該年度の9月30日までの期間を指す。

1 人口 - (4) 人口動態の推移 - ② 社会動態

- 社会動態は、一貫して転出超過となっているが、転入者数・転出者数とも減少傾向にある。
- 近年は500人程度のマイナスで推移している。

鶴岡市の社会動態

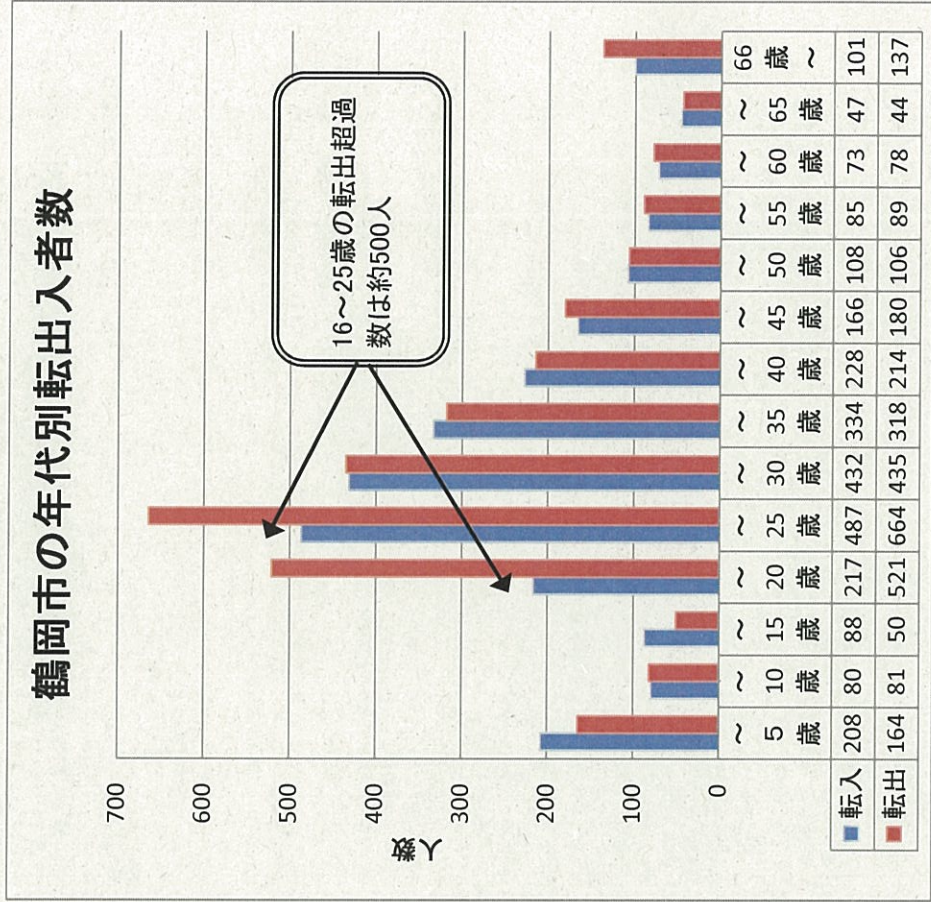
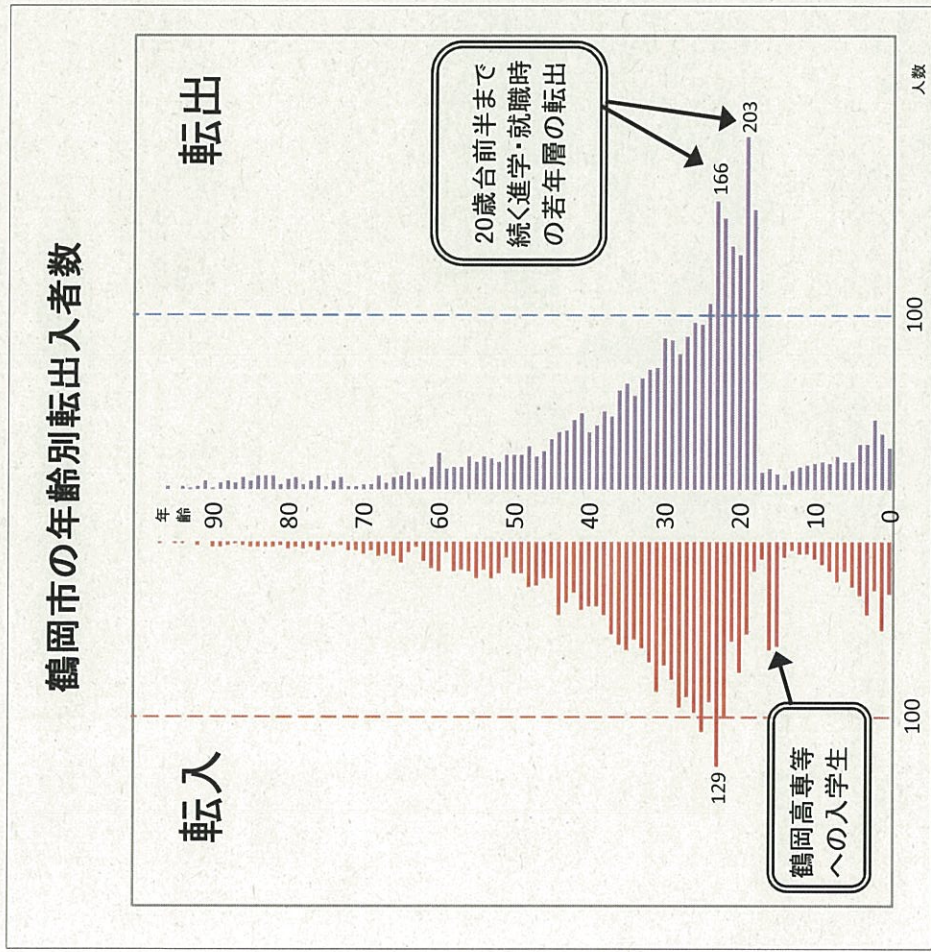


資料「山形県の人口と世帯数」

注 この年度は、当該年度の前年の10月1日から当該年度の9月30日までの期間を指す。

1 人口 - (4) 人口動態の推移 - ② 社会動態 - 年齢別転出入者 (平成28年4月～平成29年3月)

- ・ 高校卒業後から20歳前半までが大幅な転出超過となっている。この世代の転出超過数は年間約500人。
- ・ 20歳代、30歳代の転入が、転入者数全体の5割強を占めている。



資料 市民課「山形県社会的移動人口調査調査票」を集計

1 人口 - (4) 人口動態の推移 - ② 社会動態 - 転出入と地域

- ・ 転出先や転入元をみると、県内他市町村との転出入は101人の転出超過であるのに対し、県外へは441人の大幅な転出超過となっている。
 → 県外への人口流出が社会動態におけるマイナスの主要因となっている

市町村間社会的移動クロス表(平成27年10月～28年9月)

転出先 転出前の居住地	県内	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	鶴岡市	酒田市	三川町	庄内町	遊佐町	県外	総数
県内	14,806	8,623	1,105	2,605	2,473	974	966	146	271	116	18,415	
村山地域	7,879				797	370	331	22	54	20	9,608	村山地域
最上地域	1,427				147	79	50	5	12	1	1,199	最上地域
置賜地域	2,934	1,175	68	1,527	164	86	71	2			3,243	置賜地域
庄内地域	2,566				1,365	439	514	117	2		4,365	庄内地域
鶴岡市	1,075	436	63	88	488		300	82	94	12	2,132	鶴岡市
酒田市	964	396	49	66	453	260		24	94	75	1,757	酒田市
三川町	103	12		3	88	68	14		6		93	三川町
庄内町	288	50	4	6	228	96	115	11		6	225	庄内町
遊佐町	136	24	1	3	108	15	85		8		158	遊佐町
県外	14,869	8,313	807	2,322	3,421	1,691	1,368	53	197	118		

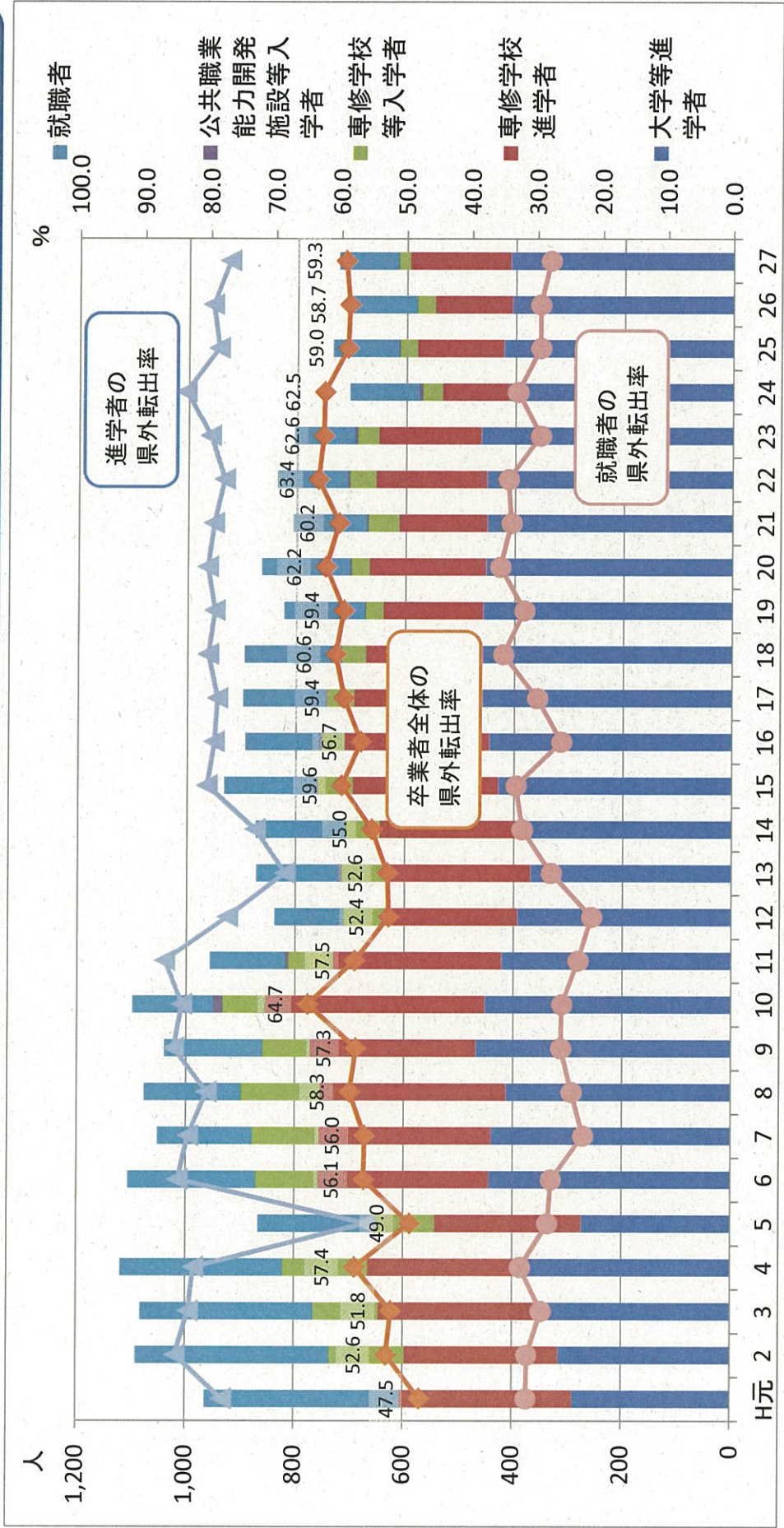
資料「山形県の人口と世帯数」
 注1)同一市町村内の移動は、隣接記載(転入)によるものである。
 注2)表中において、「0」は空欄としている。

県外への転出が県外からの転入より多い
 ↓
 県外への転出超過

県外からの転入

1 人口 - (5) 高校卒業者の県外転出

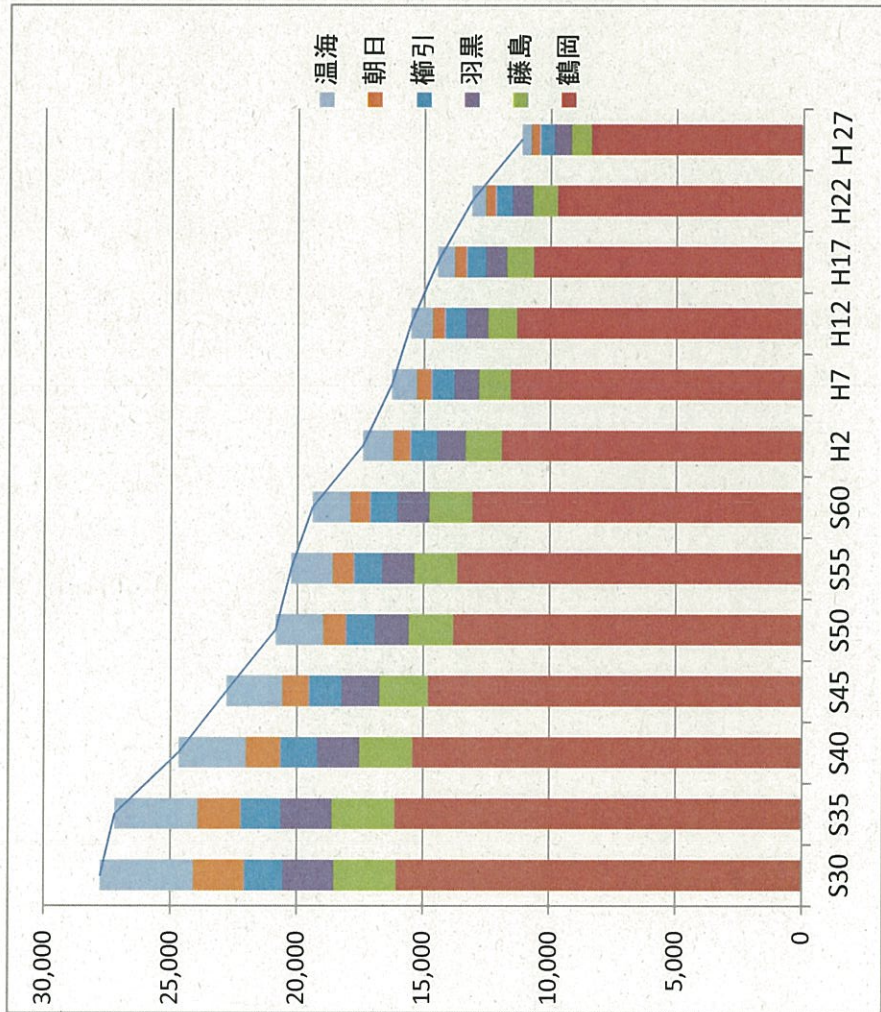
- ・ 高校卒業者の県外転出率は、進学者が80%、就職者が30%、高校卒業生全体では60%前後で推移している。
- ・ 平成28年春は、約700人の生徒が高校卒業を機会に県外に転出している。



資料 学校基本調査 ※例: H1→H2年3月の卒業生
 *1 「大学等進学者」「専修学校進学者」には就職進学者を含む
 *2 「専修学校等入学者」「公共職業能力開発施設等入学者」には就職入学者を含む

1 人口 - (6) 20~39歳女性人口の推移

• 20~39歳の女性人口はこの30年間で約40%減少した。



	(60年前)		(30年前)		(人、%)	
	1955 S30	2015年 までの減少 割合	1985 S60	2015年 までの減少 割合	2015 H27	
鶴岡市	27,781	-59.8	19,414	-42.5	11,162	
鶴岡	16,072	-47.8	13,069	-35.9	8,383	
藤島	2,460	-68.0	1,704	-53.9	786	
羽黒	2,020	-66.1	1,269	-46.0	685	
榊引	1,528	-62.4	1,087	-47.1	575	
朝日	2,017	-83.6	781	-57.6	331	
温海	3,684	-89.1	1,504	-73.3	402	

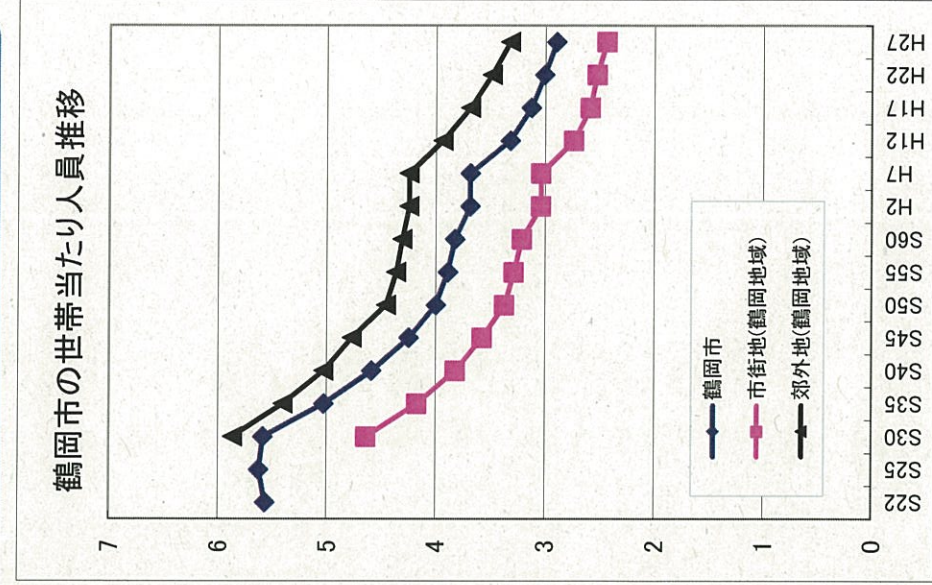
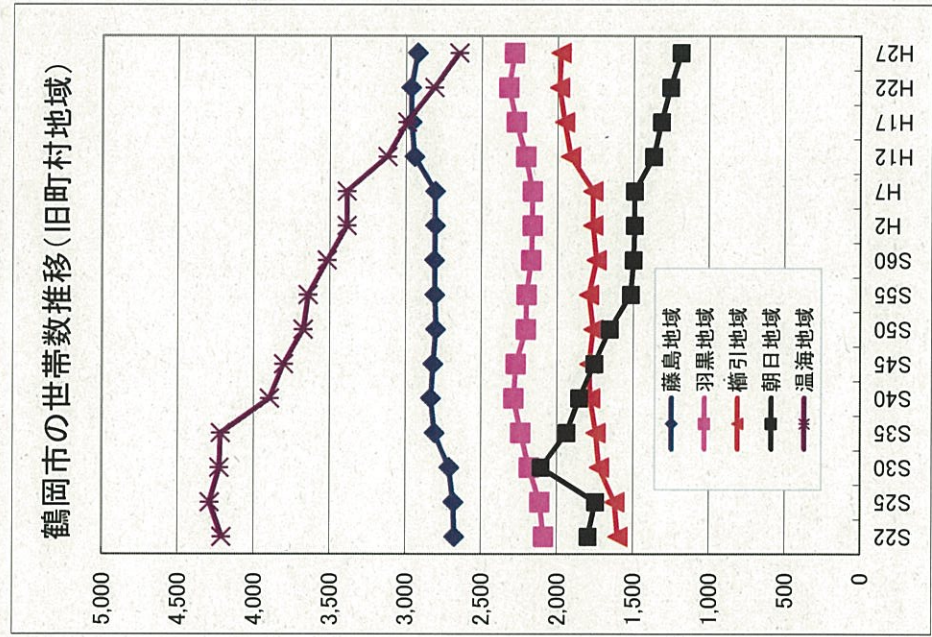
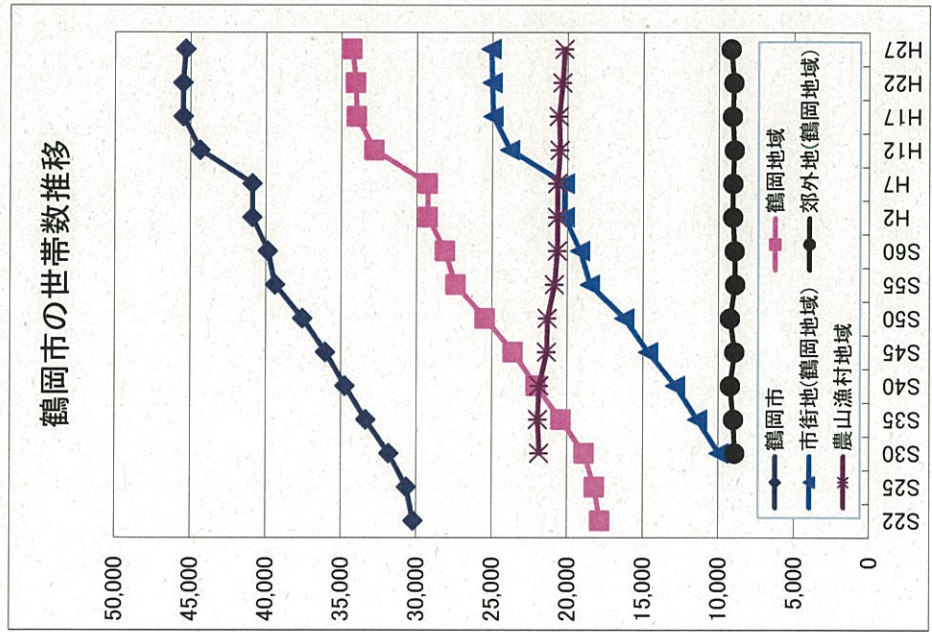
参考) 女性全年齢

鶴岡市	92,611	-26.7	79,924	-15.1	67,891
鶴岡	52,316	-8.3	52,616	-8.9	47,955
藤島	8,777	-38.9	6,907	-22.3	5,365
羽黒	7,086	-36.6	5,266	-14.7	4,492
榊引	5,550	-31.8	4,477	-15.5	3,784
朝日	6,466	-65.2	3,428	-34.4	2,249
温海	12,416	-67.4	7,230	-44.0	4,046

資料 国勢調査

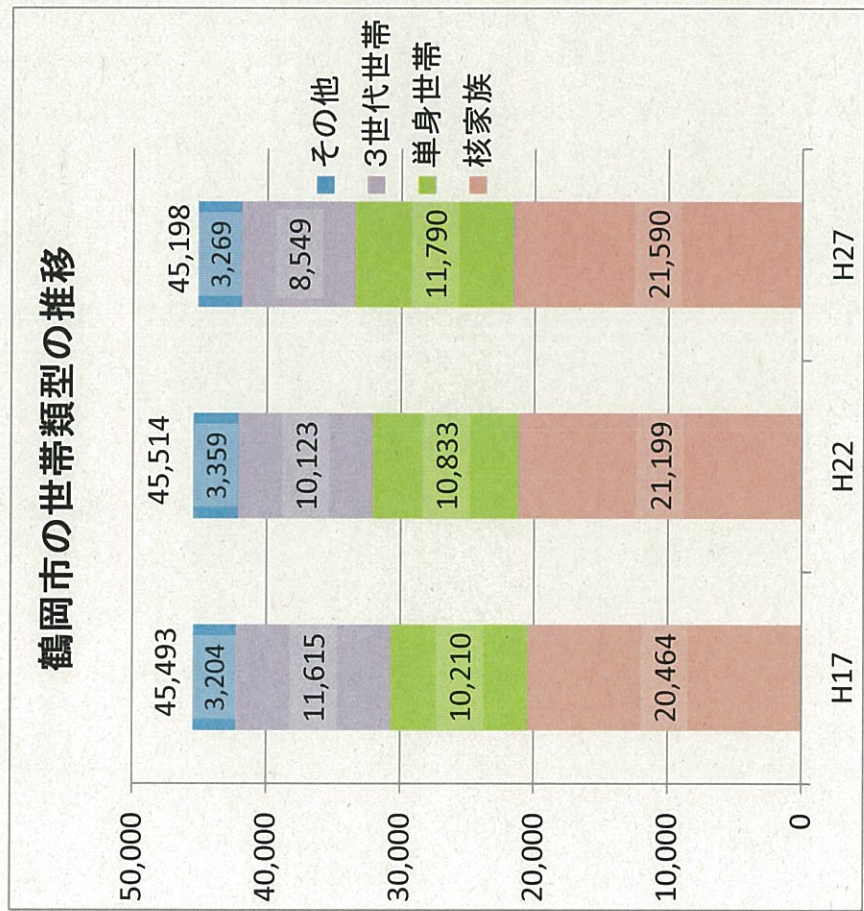
2 世帯 - (1) 世帯数

- 市全体でみた世帯数は増加を続けてきたが、平成27年に初めて減少した。
- 鶴岡地域の市街地(第1～6学区地域)は、微増を続けているが、それ以外の地域は減少傾向にあり、朝日・温海地域は減少が顕著となっている。
- 世帯当たり人員は、昭和30年以降、一貫して減少傾向にある。



2 世帯 - (2) 世帯類型

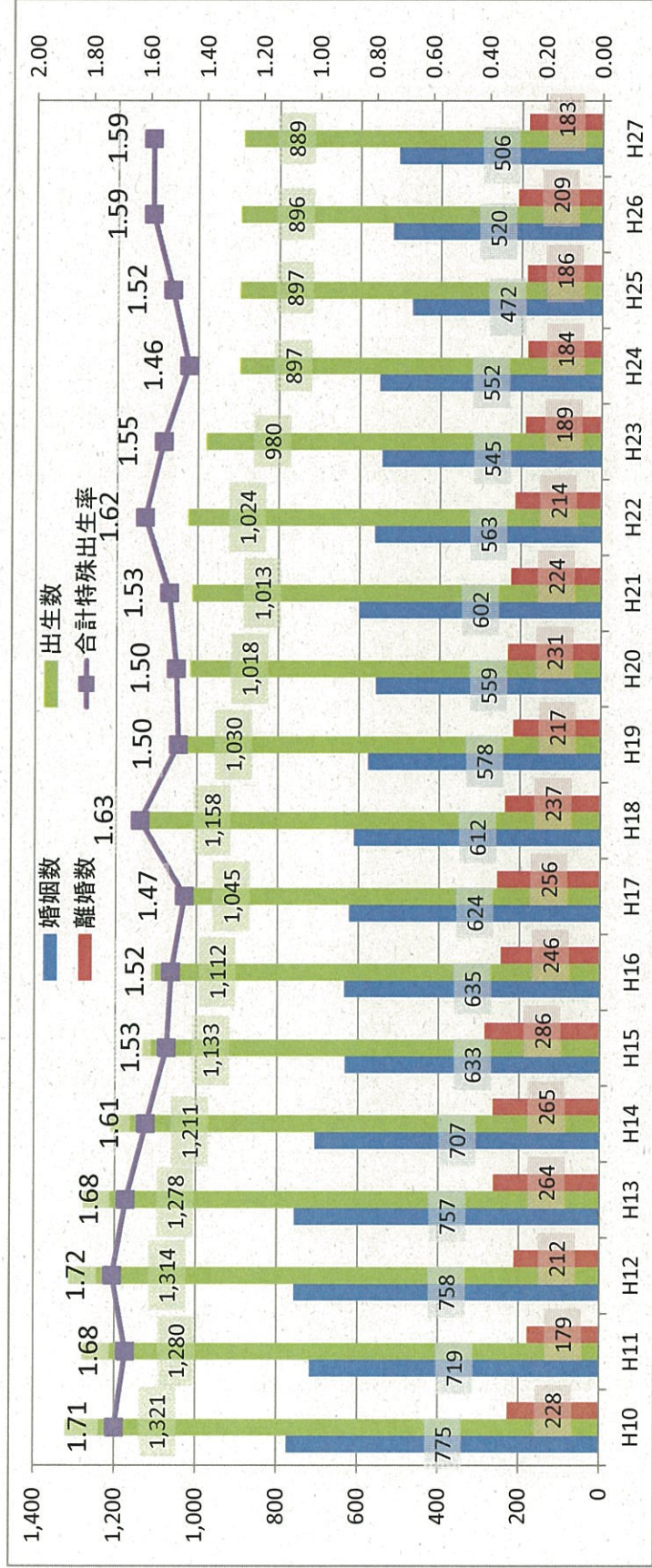
- 3世代世帯数は10年間で約3,000世帯(26%)減少している。
- 単身世帯は10年間で約1,500世帯(15%)増加している。
- 単身世帯を年齢区分別に見ると、この10年間で60歳以上が1,761世帯(40%)の増と、大きく増加している。
→ **高齢者の単身世帯の増加**



資料 国勢調査

3 婚姻 — (1) 婚姻数と合計特殊出生率

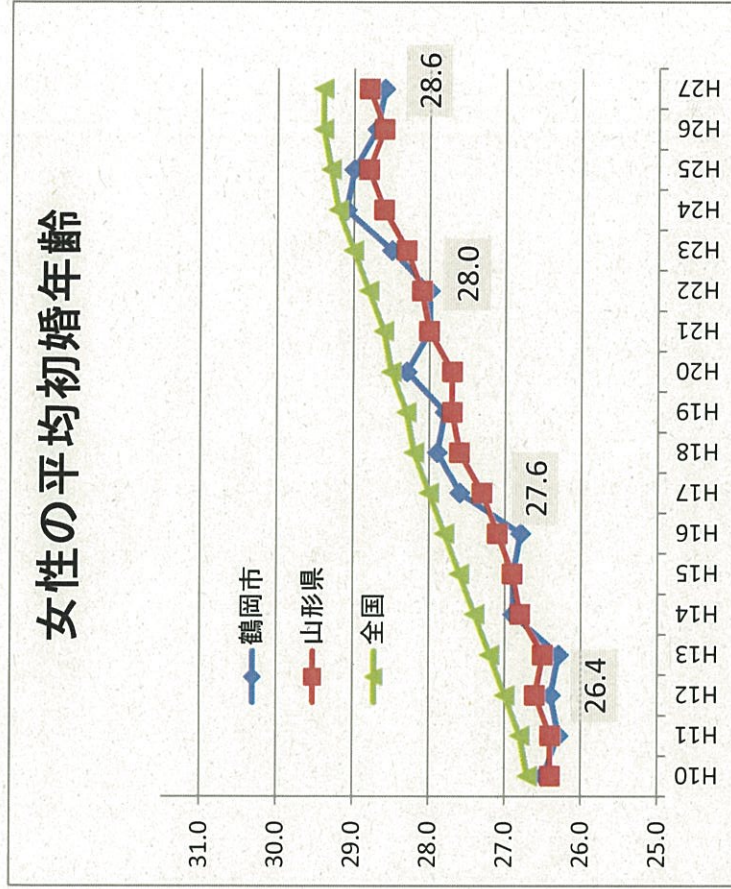
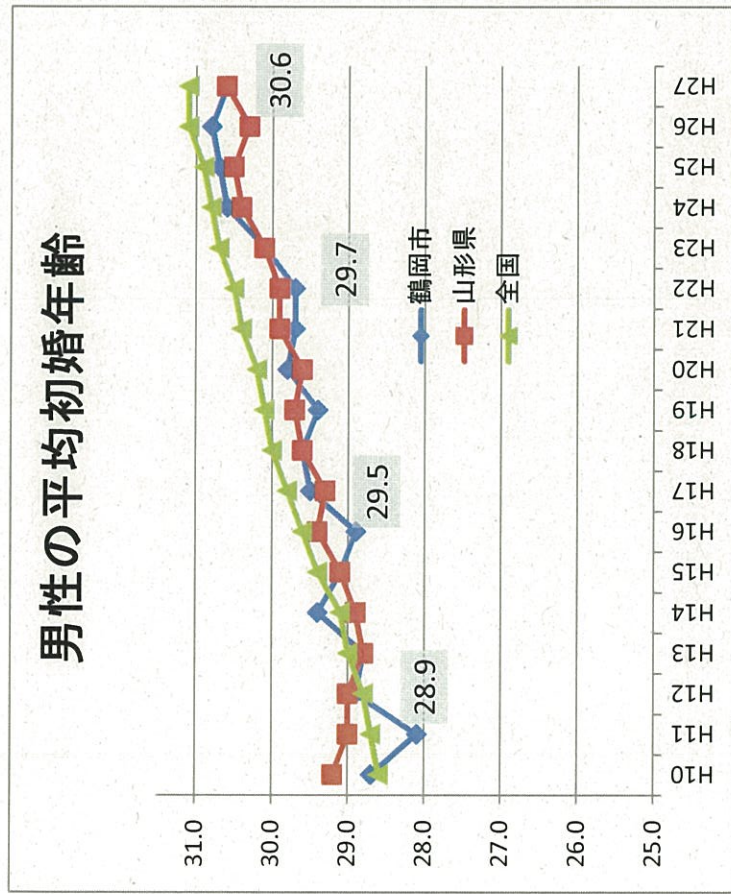
- 婚姻数は緩やかな減少傾向が続いている。平成27年は10年前に比較して118件、約2割の減少。
- 合計特殊出生率は、平成24年以降上昇傾向にあったが、ここ2年間は横ばいで推移している。
- 離婚数はこの15年間で平成15年をピークに減少傾向。婚姻数に対する割合は3分の1程度。



資料 山形県保健福祉統計年報(人口動態統計編) 年は暦年単位
 ※H16年までの合計特殊出生率は各市町村の出生数・合計出生率から15~49歳の女性人口を割戻して算出

3 婚姻 - (2) 平均初婚年齢

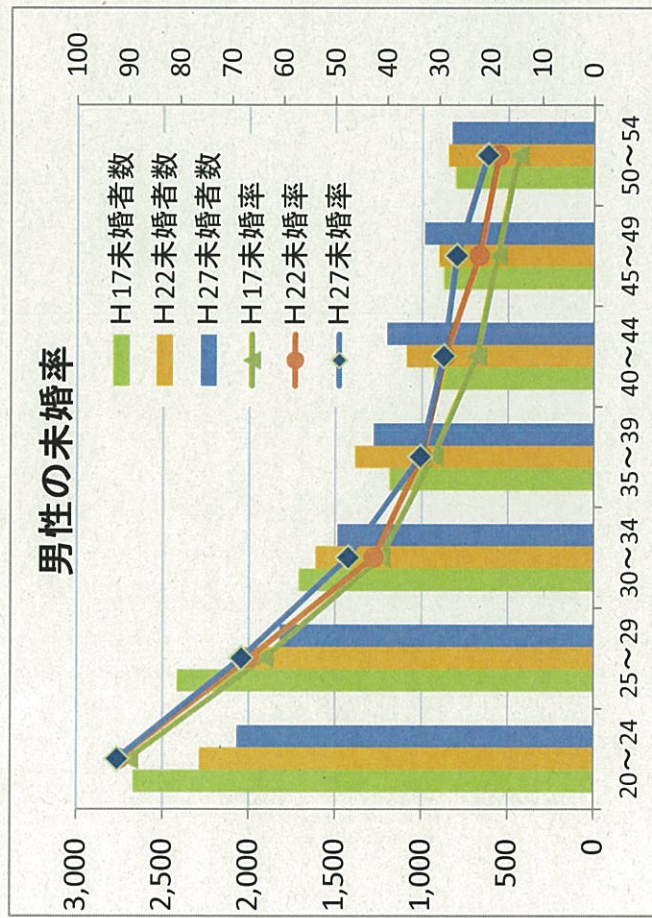
- 平成28年の本市の平均初婚年齢は、男性30.6歳、女性28.6歳。
- 平均初婚年齢は男女とも一貫して上昇傾向にあり、**晩婚化が進行**している。



資料 山形県保健福祉統計年報(人口動態統計編)、厚生労働省人口動態統計
 ※H16年までの数値は旧市町村の婚姻数による加重平均値

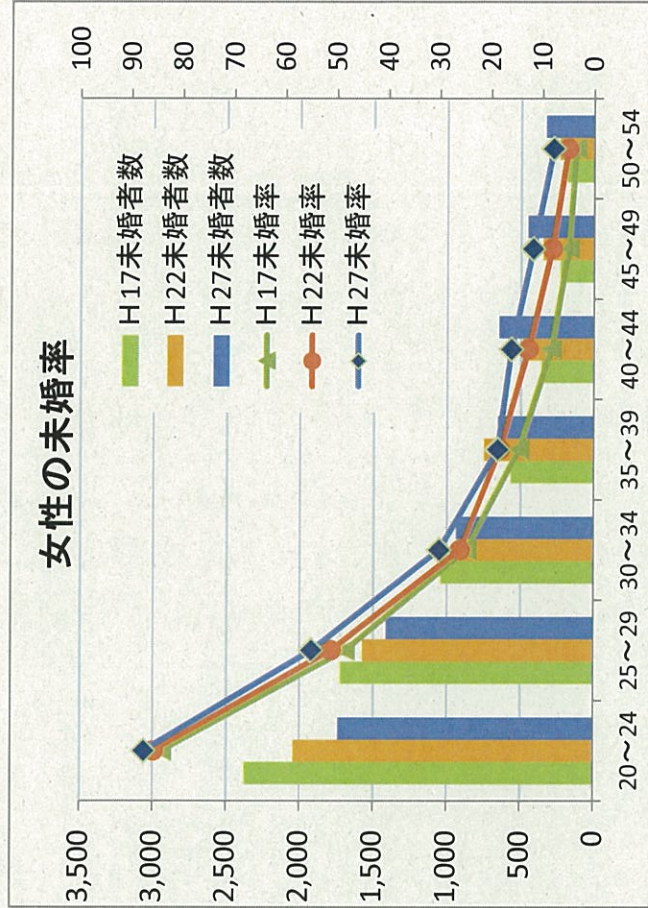
3 婚姻 — (3) 未婚率

- 未婚率は男女ともに上昇傾向にある。
- 各年齢階層ともに未婚率は上昇しており、特に40歳台以上の未婚率が著しいことから、生涯を独身で過ごす傾向が強くなっていると考えられる。



男性	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54
H17未婚率	89.9	63.8	41.3	31.1	22.7	18.8	14.7
H22未婚率	91.8	66.5	42.6	33.3	28.8	22.2	18.4
H27未婚率	92.2	68.2	47.5	33.6	29.2	26.6	20.6

資料 国勢調査



女性	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54
H17未婚率	83.9	48.3	24.8	14.6	8.4	4.9	3.5
H22未婚率	85.5	50.9	26.0	18.2	12.7	8.2	5.1
H27未婚率	87.5	54.9	30.1	18.8	16.1	11.9	8.0

資料 国勢調査

4 まとめ - 鶴岡市の人口の現状のポイント

総人口の減少

- ・総人口は昭和30年にピークを迎え、昭和55年以降一貫して減少。・温海地域、朝日地域の減少が特に著しい。
- ・平成22年から27年の5年間で、約7千人が減少しており、この傾向が続くものと予想される。
- ・生産年齢人口(15-64歳)は、平成27年から52年までの25年間で、約2万6千人(約35%)減少する見込み。
- ・老年人口(65歳以上)は、平成37年の約4万2千人をピークとして減少に転じることが見込まれるが、総人口に占める割合は上昇を続け、平成52年には40%を超える見込み。

自然動態：出生数<死亡数

- ・自然動態は平成6年以降、マイナスで推移。
- ・出生数の減少と死亡数の増加が同時に進行し、マイナス幅は拡大傾向。

出生率の低下

- ・合計特殊出生率は横ばいで推移。
- ・出生数は減少を続け、年間900人を割り込んでいる。

高齢化の進行

- ・(高齢化率)昭和30年4.8%→平成27年31.9%→平成52年40.2%

社会動態：流入人口<流出人口

- ・社会動態は、一貫して転出超過となっているが、転入者数・転出者数とも減少傾向にある。
- ・近年は500人程度のマイナスで推移。

出産適齢女性人口の低下

- ・20～39歳の女性人口はこの30年間で約40%減少、朝日・温海地域では半分以下に。

少産化

晩婚化・未婚化

- ・婚姻数は緩やかな減少傾向。平成27年は10年前と比較して118件、約2割の減少。
- ・平均初婚年齢は男女とも一貫して上昇傾向、晩婚化進む。
- ・未婚率は上昇傾向、特に40歳台以上の上昇が著しく、生涯未婚の傾向が強まる。

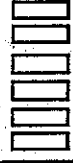
社会環境、価値観の変化

若年層の県外流出

- ・転出者は高校卒業後から20歳台前半までが最も多い
- ・16～25歳の転出超過数突出。年間に約500人。
- ・県外への人口流出が社会動態におけるマイナスの要因。

○グローバル化・ボーダレス化

- (1) 世界経済における貿易・投資の自由化・円滑化等の流れ
・経済連携協定(TPP、EPA)、自由貿易協定(FTA)
- (2) 2020東京オリンピック・パラリンピック開催を契機としたインバウンド観光の強化
- (3) 在留外国人、訪日外国人の増加



○固有の文化の価値の高まり

○価値観や生活様式の多様化

- (1) 物質的な豊かさだけでなく精神的な豊かさも求める時代の到来
- (2) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視する社会への移行
- (3) 多様な価値感や個性を尊重する意識の高まり

○少子高齢化・人口減少社会

- (1) 人口構造(年齢構成)の変化
 - ・年少人口、生産年齢人口の減少
 - ・20-39歳の女性人口の減少
 - ・生涯未婚率の上昇
 - ・後期高齢者の増加
- (2) 世帯構造(家族形態)の変化
 - ・核家族化、単身世帯、高齢者世帯等の増加
- (3) 地域コミュニティの脆弱化
 - ・コミュニティの担い手の減少
- (4) 地域産業の就業者数の減少
 - ・農林水産業の担い手の高齢化

○地球規模での環境の変化

- (1) 地球温暖化
 - ・温室効果ガスの削減要請
 - ・再生可能エネルギーへの転換
 - ・第一次産業を中心とした産業への影響
- (2) 気候変動のリスクと脅威
 - ・大規模自然災害の発生
- (3) 天然資源の制約の高まりによる循環型社会への転換

○技術革新

- (1) 高度情報化社会の進展
 - ・ICT(情報通信技術)、IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)、ビッグデータ等
- (2) 次々と生み出される新たな技術
 - ・ドローン、車の自動運転等

【第1次総合計画策定後の主な取組み概要】

平成 21 年	1 月	今後 10 年間のまちづくりの指針とする新市初の「鶴岡市総合計画」策定
	7 月	ドイツの南シュヴァルツバルト自然公園協会と友好協定を締結
	10 月	若手の市民と市職員が協働してまちづくりを考える「鶴岡まちづくり塾」が発足
平成 22 年	4 月	鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♥ふる」が開所 鶴岡市立藤沢周平記念館が開館
	10 月	本市で誕生した米の新品種「つや姫」が本格デビュー
平成 23 年	3 月	鶴岡市平和都市宣言を制定
	4 月	鶴岡市消防本部・消防署の新庁舎が開署
	9 月	地域社会全体で結婚を後押しする環境づくりを進めるため、地域の企業・団体等と連携し「つるおか婚活支援ネットワーク」を設立
平成 24 年	3 月	日本海東北自動車道のあつみ温泉ICから鶴岡JCTまで延長 25.8 キロが供用開始
	4 月	鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」が開館 慶應先端研を中心に地域密着型の生活習慣病予防研究「未来健康調査」を開始
	10 月	三川町、庄内町と本市で「庄内南部定住自立圏の形成に関する協定書」調印
平成 25 年	4 月	第3子以降の保育料無料化を実施(28 年度からは第1子の年齢制限を12歳未満から18歳未満へ拡大) 県内市町村初の住民参加型市場公募債「加茂水族館クラゲドリーム債」を発行
	5 月	集落の課題把握や維持再生に向けた取組みを支援するため朝日地域に地域おこし協力隊を配置 (平成 27 年度から温海地域へ配置)
	11 月	「鶴岡市歴史的風致維持向上計画」が国土交通省より認定
平成 26 年	3 月	鶴岡市総合計画後期基本計画を策定
	6 月	鶴岡市立加茂水族館がリニューアルオープン
	7 月	中学3年生までの医療費自己負担の完全無料化を実施
	12 月	ユネスコ創造都市ネットワーク食文化分野への加盟認定 (食文化分野では日本初)
平成 27 年	4 月	本市への移住希望者の総合的な窓口として移住コーディネーターを配置
	10 月	食をテーマに開催された 2015 年ミラノ国際博覧会に鶴岡市として参加 「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「鶴岡市人口ビジョン」を策定
平成 28 年	4 月	出羽三山「生まれかわりの旅」が日本遺産に認定
	7 月	鶴岡にある企業との情報交換、就農案内、移住相談、スモールビジネス実践者との交流などを行う「第1回 鶴岡 job cafe」を東京都で開催
	9 月	全国豊かな海づくり大会を開催
	11 月	農林水産省が創設した「食と農の景勝地」に認定 日本海東北自動車道のあつみ温泉ICから鼠ヶ関IC(仮称)間が着工
	12 月	イタリア食科学大学と戦略的連携協定を締結
平成 29 年	1 月	新羽黒庁舎が開所
	2 月	鶴岡市市政報告会を東京都で開催
	4 月	政府関係機関の地方移転方針に基づき、国立がん研究センターの研究連携拠点が開所 「サムライゆかりのシルク」が日本遺産に認定
	7 月	第3回全国メロンサミットを開催